



人間牧場主  
若松 進一

## 地域と共に育つ…

### みどり 翠小学校

#### ●学校はどこまで変わってしまったのか

美しい国日本を象徴するものに、地域ごとに設置されている学校があります。

とりわけ小学校は、誰もがラウンドセルを背負って6年間も通った場所ですから、子どもにとつても親にとつても思い出のいっぱい詰まった場所に違いありません。校門をくぐると校庭には二宮金次郎の銅像やシンボルとなる大きな木があつて、今でも少年時代の淡い思い出が、まるで昨日のことのように蘇ってくるのです。でも現代の学校は、私たちの思い出の彼方にあるイメージとは、次の三点におい



山あいにある翠小学校

て少し違ってきたのではないかと思うのです。

まず一つは、校舎が近代化という名の基に、画一化された鉄筋コンクリートになったことです。半永久的な構造物と思われた建築物なのに、高温多湿の日本の気候に合わず、予想以上に劣化が進み耐震診断では補強をしなければ子どもたちの安心安全が確保できない施設が多くなっています。学校は、木に交わつて学ぶと書く文字そのままに、木

復活を望む声が高くなっているようです。

二つ目は、子どもの数が少子化でどんどん減り続け、学校に空き部屋が目立つようになりました。それどころか子どもの数が減つた事を理由に、市町村合併後は学校の統廃合がなし崩しに行われ、学校を中心とした地域のコミュニティ拠点としての機能が、急速に衰えようとしているのです。「歩いて行け



手づくりの「ほたる祭り」

る距離だった学校がなくなれば地域そのものが崩壊する」という地域住民の危惧は、財源不足と効果効率の前にはなすすべもなく、長い学校の歴史が消えようとしているのです。

三つ目は、学校の校門が閉じていることです。つい最近まで学校は、地域に開かれた最も安心安全な場所でした。しかし、度重なる事件によつて昼間でも門を堅く閉ざし、子どもの登下校さえ見守り隊などの監視がなければ、不安な世の中になつてしまったのです。学校が無菌状態とも思える先生と生徒という点と線の関係だけで教育効果を上げることが到底無理な話で、地域に開かれてこそ学校は成り立つのです。

#### ●地域に開かれた学校

こうした中で、学校と地域の関わりを考える見本のような学校が、伊予市双海町の谷深い地域にあります。この学校は校名がカワセミの名前に由来する「翠小



子どもたちの呼びかけで始まったガードレール磨き

持ち上がり、役場や議会へ陳情された時期がありました。結果的には町の財政難と順番待ちが皮肉にもこの学校を残す結果となり、今は保存存

学校」で愛媛県内現役では最も古い（昭和5年建築の築後75年）木造校舎です。生徒数僅か30人ほどの小さな学校ですが、遠望・近望全てに「ああ学校だ」と思えるほどの学校らしい学校なのです。地域の中心に位置するに相応しい威風堂々とした赤い屋根は、原風景として周りの自然に上手く溶け込んでいます。戦前・戦中・戦後を挟んだ現代まで家族三代が、同じ校舎で学ぶことの意味は十分伝わってきます。雑巾と箒で掃除をしながら大切に守ってきた校舎の思い出は、卒業生にとつて忘れることの出来ない思い出に違いありません。

しかしこの校舎もある時期には古いことと時代遅れ、それに危険というレッテルが貼られ、新築の話が地域から何度も持ち上がり、役場や議会へ陳情された時期がありました。結果的には町の財政難と順番待ちが皮肉にもこの学校を残す結果となり、今は保存存

続が地域の強い意志となつていきます。更に後押しするように、環境省のエコ改修事業指定を受け、文化的価値を加味した保存が出来るようになったことは、いささかなりともこの学校にかかわつてきた一人として嬉しいことだと思えます。

この学校の特長は、何といつても地域に開かれていることです。PTAやおやじの会などが、学校運営の後押しをすることは勿論のこと、地域ぐるみのほたる保護活動やグリーンツーリズム運動が盛んに行われ成果を上げており、地域の拠点でありシンボルの存在でもあるのです。特にほたるは、20年にも及ぶ保護活動が実を結び、環境省「ふるさといきもの里」に選定されていますし、水車小屋も復活して、学校を会場としたほたる祭りなどの手づくりイベントが繰り広げられています。また、観光イチゴ園なども話題を広げ、学校の施設見学を組み合わせた交流も盛んに行われているようです。

### ●学校が心のより所に

学校は、地域にとつて空気のような存在だと思えます。日ごの暮しには、それ程の必要性はありません。しかし、学校が醸し出す地域の風は、無くなって初めてその存在が分る重要なものなのです。翠小学校の児童たちが描く図画には、必ず何処かにほたるや夕日が登場しているし、

地域の人も小学校を心のより所としてい

る言動が目立ちます。洋風でお洒落な校長室、畳が敷かれた広い

図書室、長くて広い廊下、木製の机、雑巾の投げ後が残る天井、漢数字や角度が学べるどつしりとした階段、そして素敵な先生や子供たちなど、まるで「二十四の瞳」に出てくるようなセピア色の学校をあなたも一度訪ねてみては如何でしょう。



翠小学校図書室でのエコ改修検討会

学校は 木に交わつて 学ぶもの  
借金コンクリ 息も出来ぬわ  
学校を 統廃したがる お役所に  
金がないなら 職員減らせ  
今日休み？ 門を閉ざした 小学校  
せめて心の 扉開けて  
スモールな 学校こども 皆主役  
競争よりも 共生重視  
(若松進一 笑売啖呵より)